

「英語の見える化」記号一覧

前置詞句	[副詞句] [形容詞句] ^a	<ul style="list-style-type: none"> 前置詞句を括弧で囲む 形容詞句は「a」で示す
動詞	<div style="border: 1px solid red; border-radius: 50%; padding: 2px; display: inline-block;">自動詞</div> <div style="border: 1px solid red; border-radius: 50%; padding: 2px; display: inline-block;">他動詞</div> 目的語	<ul style="list-style-type: none"> 動詞を丸で囲む 他動性を「>」で示す 目的語に下線を引く
準動詞	to 不定詞 to <div style="border: 1px solid blue; border-radius: 50%; padding: 2px; display: inline-block;">自動詞の原形</div> to <div style="border: 1px solid blue; border-radius: 50%; padding: 2px; display: inline-block;">他動詞の原形</div> 意味上の目的語 現在分詞 <div style="border: 1px solid blue; border-radius: 50%; padding: 2px; display: inline-block;">自動詞の現在分詞</div> <div style="border: 1px solid blue; border-radius: 50%; padding: 2px; display: inline-block;">他動詞の現在分詞</div> 意味上の目的語 過去分詞 <div style="border: 1px solid blue; border-radius: 50%; padding: 2px; display: inline-block;">過去分詞</div> 動名詞 <div style="border: 1px solid blue; border-radius: 50%; padding: 2px; display: inline-block;">自動詞の動名詞</div> <div style="border: 1px solid blue; border-radius: 50%; padding: 2px; display: inline-block;">他動詞の動名詞</div> 意味上の目的語	<ul style="list-style-type: none"> 準動詞は左端を「 」にする 他動性を「>」で示す 意味上の目的語に下線を引く
節	[副詞節] [形容詞節] ^A (名詞節)	<ul style="list-style-type: none"> 前置詞句よりも大きな括弧 形容詞節は「A」で示す 名詞節は丸括弧で示す

- 主語と補語は、行下に「S」「C」を記す（「V」「O」は特に必要な場合のみ）
- 準動詞の意味上の主語、補語等には、「(s)」「(c)」および「(v)」「(o)」を用いる
- 間接目的語は二重下線で、意味上の間接目的語も二重下線で、直接目的語と区別する
- 節に準ずる不定詞句、分詞句、動名詞句も、節と同様に大きな括弧で囲む

【補足】

- ・不完全自動詞による第2文型を明示したい場合は、「S = C」で主述関係を示す
否定の場合は「S ≠ C」とする

He (is) a student.
S = C

She (is) not a student.
S ≠ C

- ・不完全他動詞による第5文型を明示したい場合は、「O = C」で主述関係を示す

We (call) that mountain Sakurajima.
S V O = C

■ 記号を付ける道具

次のようなものがあります。

- ・黒鉛筆（前置詞句と節は括弧の大きさに合わせて区別する必要がある）
- ・ボールペン（こすると消えるフリクション）
- ・タブレット、スマホ（PDFに書き込めるMetaMoji Shareなどのアプリを使う）
- ・パソコン（Microsoft Wordで図形を挿入する。少し工夫が必要）

記号を使うメリット

- ・英文構造の説明・理解が容易となる

文法用語による説明は、往々にして教師の自己満足になりがちです。文法用語に合わせて記号を使うことによって、学習者の理解が進み、記号づけされた英文を見て一目で把握できるようになっていきます（「英語の見える化」）。複文は、節を括弧で囲むことによって難度が単文レベルに近づきます。

- ・和訳の「創作」から脱却できる

記号で英文の構造を示してチャンク訳で語句の意味を示せばその英文の意味が示せるので、英単語の意味を適当につなぎ合わせて和訳を作る（創作する）状況から脱却できます。

- ・学習者の英文理解を把握できる

学習者に記号をつけさせることによって理解度を把握できます（学習者の英語力の「見える化」）。品詞の理解が曖昧な場合は、チャンク訳の語尾（日本語の助詞など）で理解を確認します。

記号を色分けするメリット

- ・準動詞、節の学習に意識して取り組むことができる

準動詞（の意味上の主語、目的語、補語）や関係節の学習にはそれなりに意識して取り組む必要があります。

- ・英文の難易度が一目でわかる

英文教材を選択する時など、カラーで記号づけされていれば、青や緑の頻度で英文の難易度が把握できます。語彙の難易度が教材のレベル分けの一般的基準となっていますが、日本人学習者にとっては構文の難易度がより重要です。